令 和 4 年 12 月 6 日

第 151 回火山噴火予知連絡会による全国の火山活動の評価

全国の主な火山活動評価

桜島

南岳山頂火口では、７月中旬から噴火活動が活発となっています。

火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、７月以降増加し、概ね多い状態で推移しています。

姶良カルデラ及び島内の地盤変動には、大きな変動は認められません。

姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部では長期にわたり供給されたマグマが蓄積した状態と考えられ、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も概ね多い状態であることから、現在噴火活動がみられる南岳山頂火口を中心に、引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられます。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中

諏訪之瀬島

御岳（おたけ）火口の噴火活動は、９月下旬から 10 月中旬にかけて一時的に活発化したものの、2022 年４月中旬以降、低下しています。

地殻変動観測では、６月頃から諏訪之瀬島西側のやや深部におけるマグマの蓄積量の増加を示すと考えられる変動が観測されています。また、島の西側を震源とするＡ型地震が５月頃から増加しています。2019 年から 2020 年にかけても同様の活動がみられ、その後噴火活動がさらに活発化しました。

諏訪之瀬島では、今後も噴火が発生し、火口から概ね２km の範囲に大きな噴石が達する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中

西之島

10 月１日から 12 日にかけて噴火が確認されましたが、溶岩の流出は認められていません。西之島の地表面温度は、３月中旬頃から島の周囲と比較してわずかに高い傾向となっており、火山活動は継続しています。これまでの活動経緯を考慮すると、今後、火山活動がより活発化する可能性もあります。

【参考】火口周辺警報（入山危険）発表中

海徳海山

８月から、変色水等が確認されています。今期間、認められた変色水は、火山活動の活発化を示していると考えられます。今後、噴火が発生する可能性がありますので、火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火警報（周辺海域）（周辺海域警戒）発表中

硫黄島

７月上旬から８月上旬にかけてと 10 月前半に翁浜沖で小規模な噴火が発生し、新鮮なマグマが噴出したと推定されます。GNSS 連続観測では、島全体の隆起を示す地殻変動が長期的に継続しており、地震活動、噴気の状態もやや活発な状態が続いています。このような中でマグマの噴出が初めて観測されたことから火山活動が高まる可能性もありますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】火口周辺警報（火口周辺危険）発表中

薩摩硫黄島

火山性地震や火山性微動の発生状況に特段の変化はありません。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は１日あたり 1,000 トン前後の状態が継続しており、時折噴煙が高くなるほか、夜間に火映を観測しています。長期的には熱活動が高まった状態が続いていることから、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

焼岳

山頂付近の微小な地震活動や、山頂付近での緩やかな膨張の可能性のある変化は継続しています。また、焼岳周辺では数年おきに震度１以上を観測する地震を含む活発な地震活動がみられます。中長期的に焼岳の火山活動は高まってきている可能性がありますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

鶴見岳・伽藍岳

伽藍岳付近では、７月８日に浅い所を震源とするＡ型地震が一時的に増加しました。翌９日以降は少ない状態となっています。

鶴見岳では火山性地震は少ない状態で経過しましたが、鶴見岳付近が震源と推定されるＢ型地震が時々発生しています。

地殻変動観測では、特段の変化は認められません。

現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

霧島山（新燃岳）

新燃岳では、火口直下を震源とする火山性地震が 2022 年３月 27 日に多い状態となりましたが、その後は増減を繰り返しながら次第に減少し、７月下旬以降は少ない状態で経過しています。

新燃岳火口内及び新燃岳西側斜面の割れ目では、噴気活動や地熱域の状況に特段の変化は認められません。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は検出限界未満で経過しています。

GNSS 連続観測では、2021 年 12 月以降、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びがみられていましたが、７月頃から停滞しています。また、新燃岳付近の膨張を示すと考えられる基線のわずかな伸びは、６月以降停滞しています。

現時点では噴火の兆候は認められませんが、今後の活動の推移に留意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

口永良部島

新岳火口では、2020 年８月 30 日以降、噴火は観測されていません。

火山性地震は４月以降概ね少ない状態で経過していましたが、７月 30 日から 31 日にかけて古岳付近の浅い所が震源と推定される地震が一時的に増加しました。８月１日以降は概ね少ない状態となっています。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね 50 トン以下と少ない状態で、検出限界を下回ることもあります。GNSS 連続観測では、2021 年５月以降、特段の変化は認められません。

口永良部島では、火山活動は低下しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低いと考えられます。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

各地方の主な活火山の火山活動評価

１．北海道地方

①　アトサヌプリ

アトサヌプリ（硫黄山）西側では、2021 年秋以降 GNSS 連続観測で膨張を示唆するわずかな地殻変動が観測され、地震活動も時々みられていますが、噴気活動やアトサヌプリ付近の浅部地震活動には特段の変化はなく静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　雌阿寒岳

GNSS 連続観測では、2022 年８月頃から山体の浅部及び深部の膨張を示すと考えられるわずかな地殻変動がみられています。ポンマチネシリ 96-1 火口付近浅部では８月頃から地下の熱活動の高まりを示す全磁力変化が観測されており、８月下旬には火山性地震の一時的な増加や継続時間の短い火山性微動がありました。各火口の噴気活動には特段の変化はみられていませんが、今後の火山活動の推移には注意が必要です。

③　大雪山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④　十勝岳

GNSS 連続観測では、2021 年頃から山体浅部の収縮を示すと考えられる地殻変動が引き続き認められています。62-2 火口、振子沢噴気孔群及びその周辺では引き続き噴煙・噴気が多い状態で、62-2 火口ではごく微弱な発光現象が時々観測されています。浅部の熱活動は活発な状態が続いていますので、今後の火山活動の推移には注意が必要です。

⑤　樽前山

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。なお、山頂溶岩ドーム周辺では高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

⑥　倶多楽

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦　有珠山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧　北海道駒ヶ岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　恵山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

２．東北地方

①　岩木山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　八甲田山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③　十和田

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④　秋田焼山

GNSS 連続観測及び干渉 SAR 解析では、2020 年中頃から八幡平・秋田焼山周辺で膨張性の地盤変動がみられ、その推移に留意する必要がありますが、地震活動や地熱域等の表面現象に特段の変化はみられません。

⑤　岩手山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥　秋田駒ヶ岳

山頂付近では、2017 年９月以降、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています。そのうち女岳付近では地熱活動も継続的に認められており、中長期的な火山活動の活発化に留意が必要です。

⑦　鳥海山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧　栗駒山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　蔵王山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑩　吾妻山

５月頃からみられていた大穴火口浅部の緩やかな膨張を示す変化は、８月下旬頃から停滞し、顕著な火山活動の活発化には至らずに経過しました。大穴火口周辺では、地下の温度上昇を示唆する変化が弱まりながらも継続し、一部地熱域にわずかな変化がみられていること等から、今後の火山活動の推移に留意してください。

⑪　安達太良山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑫　磐梯山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

３．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

①　那須岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　日光白根山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③　草津白根山

草津白根山では、2014年や2018年に湯釜付近浅部への火山性流体の著しい供給の増加によると考えられる火山性地震の活発化と浅部の膨張などが観測され、2018年には本白根山で水蒸気噴火が発生しました。広域の地殻変動観測によると、2014年から2015年頃

にかけて急激な変動が起こり、しばらく停滞した後、2018年頃から緩やかな変動が継続しているとみられます。

草津白根山の火山活動には消長があり、最近の火山活動は静穏な状態にあると考えられるものの、中長期的には再活発化も考えられ、今後も火山活動の推移に十分注意が必要です。

白根山（湯釜付近）

湯釜付近では、2021年１月下旬から低調な状態で推移していた地震活動は2022年４月頃からさらに低下した状態で経過し、全磁力観測で一部の観測点でみられていた火山活動の高まりの可能性も考えられる変化も最近は停滞しています。傾斜計でも引き続き明瞭な変動が認められず、噴気の化学組成にも火山活動の高まりを示す変化はみられていません。

これらのことから火山活動は短期的に静穏な状況と考えられますが、湯釜湖水の成分分析から、湯釜への高温の火山性流体の供給に低下傾向が認められず、湯釜付近の浅部の熱水活動は継続していると考えられますので、再活発化に注意が必要です。

本白根山

鏡池北火口付近の地震は2018年12月以降少ない状態で、噴気も認められておらず、火山活動は静穏な状態で経過しています。

④　浅間山

浅間山では、９月中旬に BH 型地震が一時的にやや増加しました。しかし、傾斜計や噴煙活動などの表面現象に特段の変化は認められず、火山活動がさらに高まることはありませんでした。噴煙量及び火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね少ない状態で経過し、深部からのマグマ上昇を示す地殻変動は観測されていません。

浅間山の火山活動は低下した状態ではあるものの、今後も火口から 500ｍの範囲に影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火の可能性はあります。突発的な火山灰噴出や火山ガス等に注意する必要があります。

⑤　新潟焼山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥　弥陀ヶ原

地獄谷周辺の地震活動は低調で、火山活動によるとみられる地殻変動は観測されていませんが、地獄谷では、2012 年６月以降、噴気の拡大や噴気温度の上昇などがみられており、熱活動が活発な状態が続いています。今後の火山活動の推移に注意が必要です。

⑦　焼岳

山頂付近の微小な地震活動や、山頂付近での緩やかな膨張の可能性のある変化は継続しています。また、焼岳周辺では数年おきに震度１以上を観測する地震を含む活発な地震活動がみられます。中長期的に焼岳の火山活動は高まってきている可能性がありますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

⑧　乗鞍岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　御嶽山

地震活動は低調に経過し、地殻変動も停滞しており、火山活動は静穏な状態に戻る傾向が続いています。

ただし、地獄谷火口内では、突発的な火山灰等の噴出に引き続き注意が必要です。

⑩　白山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪　富士山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑫　箱根山

地震活動は低調で、火山活動によるとみられる地殻変動は観測されていません。ただし、大涌谷周辺の想定火口域では活発な噴気活動が続いているため、火山灰等の突発的な噴出現象に注意する必要があります。

⑬　伊豆東部火山群

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑭　伊豆大島

三原山山頂火口内及びその周辺の噴気活動は低調で、火山性地震は概ね少ない状態で経過しており、ただちに噴火が発生する兆候は認められません。

長期的に継続していた山体の膨張は、2018 年頃からほぼ停滞していますが、これまでの膨張により地下深部にマグマが蓄積されており、中長期的には火山活動はやや高い状態にあると考えられます。

なお、短期的には、約１～３年周期で膨張と収縮を繰り返す地殻変動がみられ、膨張に伴い地震活動が活発化する特徴がみられます。

⑮　新島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑯　神津島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑰　三宅島

地震活動及び噴煙活動は低調で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も極めて少ない状態が続いていますが、山体深部の膨張を示す地殻変動は続いています。山体浅部の膨張を示すと考えられる村営牧場南―雄山北東間で伸びの傾向は 2022 年に入り停滞傾向にありますが、火山活動は徐々に高まりつつあると考えられます。また、主火孔の噴煙活動は弱いながらも続いており、火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性があります。

⑱　八丈島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑲　青ヶ島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑳　西之島

10 月１日から 12 日にかけて噴火が確認されましたが、溶岩の流出は認められていません。西之島の地表面温度は、３月中旬頃から島の周囲と比較してわずかに高い傾向となっており、火山活動は継続しています。これまでの活動経緯を考慮すると、今後、火山活動がより活発化する可能性もあります。

・気象衛星ひまわりの観測では、10 月１日から 12 日にかけて噴火が確認されました。

噴煙高度は最高で 3,500ｍまであがりました。気象衛星ひまわりの観測で噴火を確認したのは 2021 年８月以来です。今回の噴火活動は 2021 年の噴火活動よりはやや大きいものの、2019 年から 2020 年の噴火活動に比べてはるかに小さなものでした。
・西之島の地表面温度は、2022 年３月中旬頃から島の周囲と比較してわずかに高い傾向が認められています。
・上空及び海上からの観測では、山頂火口からの噴気活動が継続し、山頂火口内や火砕丘には高温領域が確認されていますが、溶岩の流出は認められていません。また、沿岸海域には変色水が確認されています。
・だいち２号の観測では、2022 年９月以降、中央火砕丘周辺部において、内壁崩落等の地形変化が進んだ可能性があります。
・衛星データの解析によると、７月頃から二酸化硫黄の放出が観測され始め、９月下旬から 10 月上旬に１日あたり１万トン以上に放出量が増大し、その後減少したことが、認められました。放出率は 2021 年の活動より大きいですが、2020 年の活動より小さいです。

㉑　海徳海山

８月から、変色水等が確認されています。今期間、認められた変色水は、火山活動の活発化を示していると考えられます。今後、噴火が発生する可能性がありますので、火山活動の推移に注意が必要です。
・海徳海山付近で、８月 18 日及び 19 日に変色水を確認したとの通報が 19 日にありました。
・８月 23 日及び 28 日に実施した上空からの観測でも、海徳海山で変色水等が確認されました。
・衛星からの観測でも、海徳海山付近で、変色水域と考えられる領域が確認されました。10 月にはその領域の面積は拡大した可能性があります。
・海徳海山では、1984 年３月から６月にかけて、軽石の浮遊がみられるなどマグマが直接関与した可能性がある噴火が発生しました。また、変色水が数か月にわたり観測されました。

㉒　噴火浅根

火山活動には特段の変化は認められませんが、今後の活動の推移には注意が必要です。

㉓　硫黄島

７月上旬から８月上旬にかけてと 10 月前半に翁浜沖で小規模な噴火が発生し、新鮮なマグマが噴出したと推定されます。GNSS 連続観測では、島全体の隆起を示す地殻変動が長期的に継続しており、地震活動、噴気の状態もやや活発な状態が続いています。このような中でマグマの噴出が初めて観測されたことから火山活動が高まる可能性もありますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。
・７月上旬から８月上旬にかけてと 10 月前半に、翁浜沖で断続的に小規模な噴火が発生しました。
・噴火により噴出した軽石にはパン皮状構造がみられ、内部が高温状態（120℃程度）のものも認められることから、新鮮なマグマが噴出したと推定されます。新鮮なマグマの噴出は初めて観測されました 。
・噴火が断続的に発生している間、周期約 1 秒の単色型微動が増加しました。単色型微動の増加は、2021 年８～９月に翁浜沖で噴出現象が認められていた期間にも観測されています。７月 25 日から８月５日にかけて実施した臨時観測の結果によると、単色型微動は噴火の発生時刻に対応して発生しており、発震源は翁浜沖のごく浅い

ところと推定されます。
・噴火が発生していた７月から 10 月にかけての期間を通して、地震活動に特段の活発化は認められませんでした。
・噴火が発生していない期間でも、翁浜沖やそれ以外の場所で、ときどき変色水が認められました。
・７月から 10 月の噴火活動に伴った地殻変動の傾向変化は認められませんが、GNSS 連続観測により長期的に認められている島全体の隆起を示す地殻変動は、継続しています。
・干渉 SAR 解析結果から、元山付近に収縮とみられる変動が、摺鉢山付近に周囲と比べて衛星から遠ざかる変動がみられます。また、阿蘇台断層に沿って変動がみられます。

㉔　福徳岡ノ場

2021 年８月 13 日から 15 日にかけて大規模な海底噴火が発生した福徳岡ノ場では、2021 年８月下旬以降、噴火は認められないものの、引き続き、変色水域が確認されています。福徳岡ノ場の過去の活動履歴を考慮すると、2021 年８月に発生した規模の噴火が、短期的に再び発生する可能性は低いと考えられます。しかしながら、火口直上の変色水域が確認されるなど、活発な火山活動が継続しており、今後も噴火の可能性があります。

４．九州地方・南西諸島

①　鶴見岳・伽藍岳

伽藍岳付近では、７月８日に浅い所を震源とするＡ型地震が一時的に増加しました。翌９日以降は少ない状態となっています。

鶴見岳では火山性地震は少ない状態で経過しましたが、鶴見岳付近が震源と推定されるＢ型地震が時々発生しています。

地殻変動観測では、特段の変化は認められません。

現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。

・７月８日に伽藍岳付近の深さ１～３km 付近を震源とするＡ型地震が増加しました。
・地震発生時に伽藍岳噴気地帯の噴気活動に変化は認められませんでした。
・地震増加後に実施した現地調査では、噴気地帯の噴気や地熱域に特段の変化は認められず、新たな噴気や地熱域も認められませんでした。
・鶴見岳付近が震源と推定されるＢ型地震が 2020 年 10 月以降時々発生しています。

②　九重山

火山性地震は少ない状態であり、噴気地帯の状況に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められません。長期的には、硫黄山付近の噴気地帯地下の温度上昇を示す全磁力の変化がみられています。今後の火山活動の推移に留意してください。

③　阿蘇山

中岳第一火口では、2021 年 10 月 21 日以降、噴火は発生していません。

火山性微動の振幅は８月頃から小さな状態となっています。

火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は７月以降、1,000 トンを下回り、少ない状態となっていますが、2021 年 10 月の噴火前よりもやや多い状態です。

GNSS 連続観測では、９月頃から広域の基線で縮みの傾向が認められており、深部のマグマだまりへの蓄積は進行していないものと考えられます。

阿蘇山では、火山活動は低下した状態で推移していますが、火口内では、土砂や火山灰

が噴出する可能性があります。

・火山性地震及び孤立型微動は６～７月にかけて多い状態でしたが、その後減少し、少ない状態となっています。
・現地調査では、中岳第一火口内に灰色の湯だまりを確認しました。湯だまり量は火口底の約４割で経過していましたが、11 月に入って約３割に減少しているのを確認しました。表面温度は 73～83℃でした。６月 28 日、11 月７日及び 10 日には湯だまり内で高さ５ｍ未満の土砂噴出を確認しました。
・中岳第一火口南側火口壁の地熱域の分布には特段の変化は認められません。地熱域の最高温度は９月頃から低下傾向が認められます（165～384℃）。
・全磁力連続観測では、中岳第一火口直下の温度低下を示す変化が認められています。

④　雲仙岳

GNSS 連続観測では山体西部のマグマだまりに対応する変動は認められておらず、火山活動は概ね静穏に経過しています。しかしながら、2010 年頃から普賢岳から平成新山付近の深さ概ね１～２km の火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意してください。

⑤　霧島山

霧島山では、2022 年３月末から広域で地震活動がみられていましたが、６月以降活動は低下しています。

広域の GNSS 連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びがみられていましたが、７月頃から停滞しています。

広域の地震活動は低下していますが、霧島山深部にはこれまでに多量のマグマが蓄積されていると考えられ、今後の火山活動の推移には注意が必要です。

えびの高原（硫黄山）周辺

硫黄山南側の噴気地帯では、2022 年 11 月中旬頃から噴気活動に高まりがみられています。硫黄山の西側 500ｍの噴気地帯では、2021 年 12 月以降噴気活動が時々みられています。

硫黄山付近では、火山性地震は少ない状態で経過しています。

干渉 SAR による地殻変動観測では、2022 年４月頃より硫黄山付近がわずかに隆起する地殻変動が認められましたが、６月上旬以降は特段の変化は認められません。

GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において火山活動に伴う特段の変化は認められません。

現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。

大幡池

火山活動に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。

新燃岳

新燃岳では、火口直下を震源とする火山性地震が 2022 年３月 27 日に多い状態となりましたが、その後は増減を繰り返しながら次第に減少し、７月下旬以降は少ない状態で経過しています。

新燃岳火口内及び新燃岳西側斜面の割れ目では、噴気活動や地熱域の状況に特段の変化は認められません。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は検出限界未満で経過しています。

GNSS 連続観測では、2021 年 12 月以降、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示す

と考えられる基線の伸びがみられていましたが、７月頃から停滞しています。また、新燃岳付近の膨張を示すと考えられる基線のわずかな伸びは、６月以降停滞しています。

現時点では噴火の兆候は認められませんが、今後の活動の推移に留意が必要です。

御鉢

火山活動に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。

⑥　桜島

南岳山頂火口では、７月中旬から噴火活動が活発となっています。

火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、７月以降増加し、概ね多い状態で推移しています。

姶良カルデラ及び島内の地盤変動には、大きな変動は認められません。

姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部では長期にわたり供給されたマグマが蓄積した状態と考えられ、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も概ね多い状態であることから、現在噴火活動がみられる南岳山頂火口を中心に、引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられます。

・南岳山頂火口の噴火活動は７月中旬以降活発となっています。爆発回数は2022年６月１回、７月12回、８月16回、９月23回、10月12回、11月３回（11月15日現在）と、７月以降、増加しています。
・鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した桜島の火山灰月別噴出量は、2022年６月４千トン、７月５万トン、８月８万トン、９月５万トン、10月４万トンと、噴火活動が活発となった７月以降やや増加しました。
・南岳山頂火口では、夜間に火映を観測しています。
・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、７月以降増加し、1,400～4,000トンと概ね多い状態で推移しています。
・火山性地震は少ない状態で経過しています。
・GNSS連続観測では、姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部におけるマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びは、2022年３月以降停滞しています。また、桜島島内の基線では、山体膨張を示す基線の伸びは2022年２月下旬以降停滞しています。
・桜島島内の傾斜計及び伸縮計では、大きな変化は認められていません。
・昭和火口では2018年４月４日以降、ごく小規模な噴火も発生していません。

⑦　薩摩硫黄島

火山性地震や火山性微動の発生状況に特段の変化はありません。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は１日あたり1,000トン前後の状態が継続しており、時折噴煙が高くなるほか、夜間に火映を観測しています。長期的には熱活動が高まった状態が続いていることから、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。

・硫黄岳では、2020年10月６日に発生したごく小規模な噴火以降、噴火は発生していません。
・硫黄岳では引き続き火映を観測し、硫黄岳火口で時々火口縁上1,000ｍを超える噴煙活動が続いています。硫黄岳周辺の地熱域の状況に特段の変化は認められません。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は１日あたり400～1,500トンでした。
・硫黄岳付近の火山性地震は少ない状態で経過しています。
・７月に継続時間の短い火山性微動が１回発生しました。
・GNSS連続観測では、薩摩硫黄島の東側海域を中心とした膨張性と思われる地殻変動がみられます。

⑧　口永良部島

新岳火口では、2020年８月30日以降、噴火は観測されていません。

火山性地震は４月以降概ね少ない状態で経過していましたが、７月30日から31日にかけて古岳付近の浅い所が震源と推定される地震が一時的に増加しました。８月１日以降は概ね少ない状態となっています。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね50トン以下と少ない状態で、検出限界を下回ることもあります。GNSS連続観測では、2021年５月以降、特段の変化は認められません。

口永良部島では、火山活動は低下しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低いと考えられます。

⑨　諏訪之瀬島

御岳（おたけ）火口の噴火活動は、９月下旬から10月中旬にかけて一時的に活発化したものの、2022年４月中旬以降、低下しています。

地殻変動観測では、６月頃から諏訪之瀬島西側のやや深部におけるマグマの蓄積量の増加を示すと考えられる変動が観測されています。また、島の西側を震源とするＡ型地震が５月頃から増加しています。2019年から2020年にかけても同様の活動がみられ、その後噴火活動がさらに活発化しました。

諏訪之瀬島では、今後も噴火が発生し、火口から概ね２kmの範囲に大きな噴石が達する可能性があります。

・９月30日21時41分の爆発では、火口中心から約900ｍまで大きな噴石が飛散しました。また、10月８日13時42分及び11月４日01時37分の噴火では噴煙が火口縁上2,400ｍまで上がりました。
・９月下旬から10月中旬にかけて爆発が増加しました。爆発増加時に、ナベタオ観測点（御岳火口から　南西約2.2km）の傾斜計で西上がりから西下がりの変化が観測されました。この変化は、島西側のやや深部へのマグマの蓄積と御岳火口直下へのマグマの上昇を示唆していると考えられます。
・御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測しました。
・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、400～3,700トンでしたが、６月以降、2,000トンを超える日が多くなっています。
・GNSS連続観測及び傾斜観測では、６月頃から島の西側やや深部におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動が認められています。
・主に島の西側を震源とするＡ型地震が５月中旬頃から増加しています。９月24日から25日にかけて、10月25日及び31日には一時的に多い状態となり、１日の発生回数は300回を超えました。島内で体に感じる地震が20回（最大震度３）発生しています。これらの地震活動は島の西側のやや深部におけるマグマの蓄積量の増加に関連していると推定されます。
・十島村役場によると、集落（御岳火口の南南西約3.5km）では、時々降灰や鳴動が確認されました。

その他の活火山の火山活動評価

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況が続いています。

１．北海道地方

知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、雄阿寒岳、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、

ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

２．東北地方

恐山、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳

３．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

高原山、男体山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、アカンダナ山、利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、北福徳堆、南日吉海山、日光海山

４．中国・九州地方・南西諸島

三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

【参考】主な活火山の火山現象に関する特別警報・警報・予報の発表状況

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況 及び警戒事項	第150回（令和４年７月５日）以降の 特別警報、警報及び予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	大雪山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	十勝岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	樽前山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	倶多楽	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	有珠山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	恵山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
東北地方	岩木山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	八甲田山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	十和田	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	秋田焼山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	岩手山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	鳥海山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	栗駒山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	蔵王山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	吾妻山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	安達太良山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	磐梯山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	日光白根山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	草津白根山	草津白根山（白根山（湯釜付近）） 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
		草津白根山（本白根山） 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
		草津白根山※ 噴火予報（活火山であることに留意） ※白根山（湯釜付近）及び本白根山を除く草津白根山	新たな発表はなし
	浅間山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	新潟焼山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	弥陀ヶ原	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	焼岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2022年７月12日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）レベル２から引下げ
	乗鞍岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	御嶽山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	白山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	富士山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	箱根山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況 及び警戒事項	第150回（令和４年７月５日）以降の 特別警報、警報及び予報の発表履歴
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	新島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	神津島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	三宅島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	八丈島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	青ヶ島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	西之島	火口周辺警報（入山危険） 山頂火口から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。	新たな発表はなし
	海徳海山	噴火警報（周辺海域）（周辺海域警戒） 海徳海山の周辺海域では、海底噴火に警戒してください。また、海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。	2022年８月23日噴火警報（周辺海域）（周辺海域警戒）活火山であることに留意から引上げ
	噴火浅根	噴火警報（周辺海域）（周辺海域警戒） 噴火浅根の周辺海域では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石やベースサージ(横なぐりの噴煙)に警戒してください。	新たな発表はなし
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険） 従来から小規模な噴火が発生した地点及びその周辺では警戒してください。	新たな発表はなし
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域）（周辺海域警戒） 福徳岡ノ場の周辺海域では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石やベースサージ（横なぐりの噴煙）に警戒してください。	新たな発表はなし
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2022年７月８日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）レベル１から引上げ 2022年７月27日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	九重山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	阿蘇山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	雲仙岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
	霧島山	霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
		霧島山（大幡池） 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
		霧島山（新燃岳） 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2022年８月19日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）レベル２から引下げ
		霧島山（御鉢） 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	新たな発表はなし
		霧島山※　噴火予報（活火山であることに留意） ※えびの高原（硫黄山）周辺、大幡池、新燃岳及び御鉢を除く霧島山	新たな発表はなし
	桜島	火口周辺警報（レベル３、入山規制） 南岳山頂火口及び昭和火口から概ね２kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。	2022年７月24日噴火警報（レベル５、避難）レベル３から引上げ 2022年７月27日火口周辺警報（レベル３、入山規制）

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況 及び警戒事項	第150回（令和４年７月５日）以降の 特別警報、警報及び予報の発表履歴
九州地方・南西諸島	薩摩硫黄島	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 硫黄岳火口中心から概ね 0.5㎞の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。	新たな発表はなし
	口永良部島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2022年７月31日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）レベル１から引上げ 2022年９月１日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報（レベル３、入山規制） 御岳（おたけ）火口から概ね２㎞の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。	2022年７月11日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）レベル３から引下げ 2022年９月28日火口周辺警報（レベル３、入山規制）

この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示しています。
また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルを示しています。